



第9回 「平田地区の梅歩き＊梅仕事」

平田・柳水郷づくり協議会と熊本大学ましきラボによるイベント「益城町平田の梅歩き＊梅仕事」が6月30日に開催されました。

午前中は、田植えが終わった田んぼや、梅林などを見ながら平田地区内のフットパスを行い、午後は平田教育集会所で“梅仕事”として梅シロップと梅しょうゆを作りました。



梅シロップと梅しょうゆ

梅仕事の講師の熊本大学^{たけうち ゆ き こ}竹内裕希子准教授が「毎年同じ時期に同じことをすることで、1年前のことを思い返すことができることも、梅仕事の一つの楽しみですよ」と話すと、参加者たちも

「去年は今頃…」とひとつずつ梅のヘタを取りながら話を弾ませていました。



学生や先生、参加者の交流も生まれました

また、平田地区で採れたトマトやキュウリの試食、スイカ、米、ナス、ピーマンなどの販売もあり、夏の時期の平田地区を肌で感じる1日となりました。



平田地区の新鮮野菜の販売

回復復興整備課まちづくり推進室 ☎ 289 - 2930

振り返る 復旧・復興

四賢婦人記念館

「全壊」となり 新築移転へ

建物の概要と被害の状況

四賢婦人記念館の建物は、江戸時代、杉堂地区に建築された矢嶋家住宅が昭和56年に現在の上陳地区に復元されたものです。

【概要】木造瓦葺き2階建て114.20平方メートル

【被害状況】前震による被害は軽微でしたが、本震により建物の壁面と基礎部に亀裂が入り、多くの瓦が崩落。主となる柱も折れて全体が傾き、「全壊」となりました。

館内では、展示ケースが転倒し、展示資料の多くが破損・汚損しました。「四賢婦人誕生地碑」も倒壊しました。

解体し、移転新築へ

「全壊」となり、原形復旧が困難となったことを受け、



被害が大きく「全壊」となった四賢婦人記念館

町では、新たに整備する潮井自然公園の一角に移転新築することを決定、7月9日、工事に着手しました。

新たな観光施設として活用

新しい建物は、当時の間取りなどを復元し、年度内の完成を目指します。完成後は、震災の語り部活動の拠点などとして活用し、新たな教育・観光施設としても期待されます。



新四賢婦人記念館完成予定図

生涯学習課生涯学習係
☎ 286 - 3337